

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	3 0	実施時間数	3 0
担当教員	松 尾				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	運動学は人間の身体運動を科学的に分析する学問であり、リハビリテーション領域の基礎知識として重要な学問になります。身体運動は一見単純に見えますが、その実極めて精緻・巧妙に制御されており、これらの原理を理解するには、解剖学や力学、生理学などの広い分野に関する知識が要求されます。 この授業では人間の運動を構成する関節や骨格筋の機能、基礎的な力学、運動に関する神経学的な基礎知識などについて学習します。また、それらの知識をベースとして基礎的な運動である姿勢制御や歩行を理解することを目的とします。				
教 科 書	なし				

具体的な到達目標	
目標 1	運動器（筋・骨・関節・神経）の構造と働きについて説明することができる。
目標 2	基礎的な力学の知識を用い、身体の運動について考察することができる。
目標 3	各関節の構造と運動方向、その特徴について説明することができる。
目標 4	姿勢制御や歩行について、その概要を説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%		
平常点	算出方法		算出方法
出席点	算出方法		算出方法
その他	算出方法		算出方法
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸あま指整骨院にて2年間の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	理学療法士としての臨床経験に基づく実践的な見地から、あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師に必要な運動学に関する知識を教授する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		運動学の概要、運動の仕組み①（筋の構造と収縮、運動の指令と大きさ）	
2		運動の仕組み②（運動軸と運動自由度・運動方向、関節の構造と種類）	
3		力学の基礎①（ベクトル、力のつりあい）	
4		力学の基礎②（モーメント）	
5		力学の基礎③（てこ、運動の法則）	
6		上肢の関節と運動①（肩関節）	
7		上肢の関節と運動②（肘関節）	
8		上肢の関節と運動③（手関節、手指）	
9		下肢の関節と運動①（股関節）	
10		下肢の関節と運動②（膝関節）	
11		下肢の関節と運動③（足関節、足趾）	
12		体幹の関節と運動	
13		姿勢制御	
14		姿勢分析	
		前期試験	
15		歩行	

その他の事項

身体力学を理解するには基礎的な物理の知識が必要になります。第3回から第5回の「力学の基礎①～③」ではその辺りも含めてゆっくりと学習をしていきたいと思うので、高校で物理を選択していなかった人もなるべく食わず嫌いをせずに取り組んで頂ければと思います。

また、第6回から第11回の「上肢（下肢または体幹）の関節と運動」は解剖学で学んだ知識を基に授業を展開しますので、事前に解剖学の該当箇所を復習しておくとともに、必要であれば解剖学の教科書を持ってくるください。

質問等があれば教員室または下記アドレスへお願いします。skypeでの質問受付も可です。

担当者アドレス : s.matsuo@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	2	必要時間数	3 0	実施時間数	3 0
担当教員	下宮 啓佑				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	あはきの施術を行う上で、各疾患の現代医学的な成因、病態、症候、診断および治療について理解する。				
	また、本授業の履修により、臨床現場におけるあはき施術の適否・各疾患の鑑別の説明、治療の方針の検討を行うことを目的とする。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、臨床医学各論 第2版、医歯薬出版株式会社				

具体的な到達目標	
目標1	第9章循環器疾患に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標2	第10章血液・造血器疾患に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標3	第12章膠原病・リウマチ性疾患に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標4	
目標5	
目標6	
目標7	
目標8	
目標9	
目標10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	1 0 0 %		
平常点	算出方法		算出方法
出席点	算出方法		算出方法
その他	算出方法		算出方法
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☒	無 ☐	
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		オリエンテーション、シラバスについて	
2		心不全について	
3		心臓弁膜疾患について	
4		不整脈、その他の代表的な先天性疾患について	
5		冠動脈疾患（狭心症、心筋梗塞）について	
6		動脈疾患（動脈硬化症、大動脈瘤、大動脈解離など）について	
7		血圧異常（高血圧・低血圧）について	
8		心筋・心膜疾患（特発性心筋症、心筋炎、心膜炎、心タンポナーデ）について	
9		赤血球疾患（鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、再生不良性貧血）について	
10		白血球疾患（白血病、多発性骨髄腫）について	
11		リンパ網内系疾患（悪性リンパ腫）、出血性素因（紫斑病・血友病など）について	
12		リウマチ性疾患（関節リウマチ）について	
13		膠原病（SLE、全身性硬化症、ベーチェット病など）について	
14		その他の膠原病について	
15		第9章・第10章・第12章のまとめ	
その他の事項			
担当教員アドレス： shimomiya@butsugen.or.jp			

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	60	実施時間数	60
担当教員	黒木 裕士				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	リハビリテーション医学の全体を理解する。具体的には、リハビリテーション医学の歴史と現状、対象疾患、治療手段・方法について学習し、各種疾患等の個別リハビリテーション対応を説明できることを授業目的とする。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、リハビリテーション医学、第4版、医歯薬出版株式会社 上田敏著、目でみるリハビリテーション医学、第2版、東京大学出版会				

具体的な到達目標	
目標1	リハビリテーションの理念と組織について説明できる。
目標2	廃用症候群、過用症候、誤用症候、徒手筋力検査と関節可動域測定について説明できる。
目標3	装具、杖、自助具、車椅子について説明できる。
目標4	主要な大関節の運動学、および正常歩行と異常歩行について説明できる。
目標5	脳卒中のリハビリテーションについて説明できる。
目標6	脊髄損傷のリハビリテーションについて説明できる。
目標7	切断のリハビリテーションについて説明できる。
目標8	小児のリハビリテーションについて説明できる。
目標9	五十肩、変形性膝関節症、変形性股関節症、大腿骨頸部骨折、スポーツ障害、関節リウマチ、末梢神経障害の各リハビリテーションについて説明できる。
目標10	パーキンソン病、呼吸器疾患、心疾患の各リハビリテーションについて説明できる。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	1 0 0 %		1 0 0 %		
平常点	0 %	算出方法	0 %	算出方法	
出席点	0 %	算出方法	0 %	算出方法	
その他	0 %	算出方法	0 %	算出方法	
試験日					

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☐	
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		リハビリテーションの語源	
2		ノーマライゼーション、自立生活運動、障害構造、障害受容	
3		リハビリテーションの4領域、障害者雇用と特例子会社	
4		地域リハビリテーション、退院後の生活	
5		廃用症候群	
6		過用症候、誤用症候	
7		共同運動、連合運動、姿勢反射	
8		運動学とリハビリテーション医学	
9		機能回復の生理学とリハビリテーション医学	
10		運動治療学とリハビリテーション医学	
11		脳卒中のリハビリテーション概説	
12		脊髄損傷のリハビリテーション概説	
13		切断・小児・骨関節疾患・関節リウマチのリハビリテーション概説	
14		内部障害・がんのリハビリテーション概説	
15		脳卒中急性期のリハビリテーション各論1（急性期）	
16		脳卒中リハビリテーション各論2（回復期、リスク管理、ゴール）	
17		脊髄損傷リハビリテーション各論1（急性期）	
18		脊髄損傷各論2（回復期、脊髄損傷ケアとリスク管理、切断と合併症）	
19		切断のリハビリテーション各論	
20		小児のリハビリテーション各論	
21		いわゆる五十肩・頸腕障害・変形性膝関節症のリハビリテーション各論	
22		変形性股関節症・大腿骨頸部骨折・スポーツ障害のリハビリテーション各論	
23		関節リウマチのリハビリテーション各論	
24		末梢神経障害のリハビリテーション各論	
25		パーキンソン病のリハビリテーション各論	
26		呼吸器疾患のリハビリテーション各論	
27		心疾患のリハビリテーション各論	
28		リハビリテーションと障害、リハビリテーション医学と医療、心身機能・身体構造の評価、活動の評価、参加の評価、合併症の評価、運動麻痺の評価	
29		運動年齢テスト、失行失認テスト、摂食嚥下障害評価、装具、杖、自助具、車椅子、義肢	
30		関節と関節の力学、姿勢とその異常、脊柱・体幹、肩甲骨・肩、肘と前腕、手と手指、骨盤と股関節、膝関節、足関節、正常歩行と異常歩行、顔面および頭部の筋	
その他の事項			

毎回の授業冒頭では、前回の授業の不明点等について質問時間を設けます。教科書だけでなく、動画等を用いることがあります。

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	臼井 明宏				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	我が国が健康の保持増進のために、それぞれの家庭・学校・職場・地域社会・生活環境、食事と栄養、運動と休養、メンタルヘルス、法律・制度 をどのように発展させ活かしてきたのかの概要を学び、衛生学・公衆衛生学の現代の活動と意義について学習するとともに、鍼灸師、アロマ指師として必要な事項についても学習する。				
教 科 書	東洋療法学校協会編「衛生学・公衆衛生学 第2版」(医歯薬出版)				

具体的な到達目標	
目標1	衛生学・公衆衛生学の歴史および意義について、説明することができる。
目標2	健康およびその管理について、食品・栄養・運動と健康との関わりについて説明することができる。
目標3	日常生活環境、環境問題と健康との関わり、労働環境などと健康との関わりについて説明することができる。
目標4	精神の健康と精神障害について説明することができる。
目標5	母子保健、学校保健について説明することができる。
目標6	成人・高齢者保健、生活習慣病などについて説明することができる。
目標7	感染症とその対策、消毒法について説明することができる。
目標8	疫学、保健統計について説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業3年、他治療院2年の勤務経験あり。脳血管障害等のリハビリ病院にて、3年の研修経験あり。全日本鍼灸学会認定鍼灸師、認定訪問マッサージ師、介護予防運動指導員、福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で2年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	臨床現場での消毒、衛生操作等についても教授しながら、授業を展開する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		シラバスの説明、第1章 衛生学・公衆衛生学の意義	
2		第2章 健康（1. 健康の概要）	
3		第2章 健康（2. 健康管理）	
4		第3章 ライフスタイルと健康（1. 食品と栄養、1）～4）	
5		第3章 ライフスタイルと健康（1. 食品と栄養、5）食中毒 2. 運動と栄養）	
6		第4章 環境と健康（1. 環境とは 2. 日常生活環境、1）物理的環境要因）	
7		第4章 環境と健康（2. 日常生活環境、2）化学的環境要因）	
8		第4章 環境と健康（2. 日常生活環境、3）生物学的環境要因）	
9		第4章 環境と健康（3. 環境問題）	
10		第5章 産業保健（1. 産業保健の意義～4. 労働災害とその対策）	
11		第5章 産業保健（5. 業務上疾病とその対策）	
12		第6章 精神保健（1. 精神保健の意義～3. 精神障害の現状と分類）	
13		第6章 精神保健（3. 精神障害の現状と分類）	
14		第7章 母子保健	
15		第1章～第7章 練習問題など	
16		第8章 学校保健（1. 学校保健法の意義～3. 保健教育）	
17		第8章 学校保健（4. 保健管理～6. 学齢期の健康状態）	
18		第9章 成人・高齢者保健（1. ～3. 生活習慣病の特徴とその対策）	
19		第9章 成人・高齢者保健（4. ～6. 難病対策の現状）	
20		第10章 感染症とその対策（1. 感染症の意義と種類）	
21		第10章 感染症とその対策（2. 発生要因～4. 免疫）	
22		第11章 消毒法（1. 消毒一般。2. 消毒の種類）	
23		第11章 消毒法（3. 消毒の実際～5. 医療廃棄物）	
24		第12章 疫学	
25		第13章 保健統計（1. 保健統計の意義、2. 主な保健統計）	
26		第13章 保健統計（3. 主要な保健統計指標）	
27		第8章～第9章 練習問題など	
28		第10章～第11章 練習問題など	
29		第12章～第13章 練習問題など	
30		全章のまとめおよび国家試験での出題傾向、臨床上必要な感染対策・消毒	

その他の事項

○配布資料

「穴埋め」が行える形式で資料を配布します。動画を視聴し、各自で書き入れ、復習がしやすいように完成させてください。

○参考書籍

『公衆衛生がみえる 2021-2022』 出版：メディックメディア

『公衆衛生（系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2]）』 出版：医学書院

『シンプル衛生公衆衛生学』 出版：南江堂

『よくわかる公衆衛生学の基本としくみ[第2版]』 出版：秀和システム

『新衛生・公衆衛生学』 出版：日本医事新報社

※その他、生理学、病理学、臨床医学各論などの教科書(東洋療法学校協会)を参考にしています。

○連絡先

usui@butsugen.or.jp

専 門 分 野

(臨床経絡経穴) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2022 年度シラバス

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	2	必要時間数	3 0	実施時間数	3 0
担当教員	松浦 穰士				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	鍼灸治療の臨床の場においてよく遭遇する疾患・症状に対して、正経や奇経を用い治療法を考察する力をつける。また、奇穴や特効穴、頭皮鍼・髪際鍼なども紹介するので、実際に使用する意義や方法などを学習する。				
教 科 書	教科書は指定しない				

具体的な到達目標	
目標 1	経穴の取穴や部位だけでなく臨床にあった取穴術を理解する
目標 2	正経だけでなく、奇穴など特効穴を配穴できる。
目標 3	頭皮鍼・髪際鍼の方法を理解する。
目標 4	鍼灸院で良く見る疾患について、問診や治療法の配穴を自分で決める。
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	90%		
平常点	10%	算出方法	小テスト
出席点		算出方法	
その他		算出方法	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	鍼灸師の免許を有する。鍼灸治療院にて 21 年の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸治療院において、特に遭遇することの多い疾患に対して、診断や配穴方法を紹介する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス・手の陰経の主要穴	
2		手の陽経の主要穴	
3		足の陰経の主要穴	
4		足の陽経の主要穴	
5		正経十二経のまとめ	
6		腹部・背部の主要穴	
7		頭部・顔面部の主要穴	
8		奇経八脈の治療法	
9		消化器疾患に対する治療法	
10		糖尿病に対する治療法	
11		心の病に対する治療法	
12		自律神経症状に対する治療法	
13		頭皮鍼・頭髪際鍼の方法	
14		良導絡治療の実際	
15		沢田流太極療法・開業するために必要なこと	

その他の事項

実際の臨床で特に効果のある経絡・経穴を紹介するのでぜひしっかりと学習してください。経穴の部位がまだしっかりと入っていない人は予習をして来てください。

専 門 分 野

(東洋医学臨床論Ⅰ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2022 年度シラバス

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	3	必要時間数	4 8	実施時間数	4 8
担当教員	勢志 有次				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	平成２６年４月開催の第１００回社会保障審議会給付費分科会の地域包括ケアシステムの中の資料に“鍼灸師”の名称が明記され、医師・看護師、ケアマネージャーをはじめとする多彩な職種のスタッフと互いの専門性を活かしながら連携する「チーム医療」の一員としての役割が求められています。そのため、本講義では臨床上遭遇しやすい症候・疾病に対し、チーム医療として必要な共通言語及び東洋医学の専門性、特に鑑別診断と鍼灸治療を学習する。				
教科書	東洋療法学校協会編、新版東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉、南江堂、２０２２年				

具体的な到達目標	
目標1	疾患概念と症状を述べることができる〔現代医学分野〕
目標2	類似する疾患群の鑑別診断の要点を述べることができる〔現代医学分野〕
目標3	鍼灸適応の場合の治療穴を述べることができる
目標4	各疾患の分類について説明ができる〔東洋医学分野〕
目標5	各疾患について病因病機を説明することができる
目標6	八綱弁証及び気血津液弁証、臓腑弁証の応用ができる
目標7	東洋医学的配穴の根拠を述べることができる
目標8	代表的な徒手検査法について名称、方法、病巣について述べるができる
目標9	
目標10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	9 0 %		
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	1 0 %	算出方法	欠席 1 回減点 2 点、遅刻 1 回減点 1 点
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☒	無 ☐	
教員の実務経験	鍼灸師の免許を有する。鍼灸治療院を開院し、5年間の臨床経験あり。		
実務経験をいかした教育内容	鍼灸臨床の現場において特に遭遇する頻度の高い疾患、症状に対して基本的な診断ならびに治療方法を学ぶ。		

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、Ⅱ. 頭痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（１）	
2		Ⅱ. 頭痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（２）、Ⅰ. 概説	
3		Ⅲ. 顔面痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
4		第４節 その他の症候 Ⅰ. 顔面麻痺に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（１）	
5		第４節 その他の症候 Ⅰ. 顔面麻痺に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（２）	
6		Ⅴ. 頸肩腕痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
7		Ⅵ. 上肢痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
8		Ⅶ. 肩関節痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
9		Ⅷ. 腰下肢痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
10		Ⅸ. 腰痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
11		Ⅹ. 下肢痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
12		第４節 その他の症候 Ⅱ. 歩行異常に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（１）	
13		Ⅺ. 膝痛、Ⅳ関節痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
14		運 動 器 疾 患 復 習 ・ ま と め ①	
15		運 動 器 疾 患 復 習 ・ ま と め ②	
16		2－3 脾系統 Ⅶ. 歯痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
17		2－1 肝系統 Ⅰ. 眼精疲労に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
18		2－1 肝系統 Ⅲ. めまいに対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
19		2－5 腎系統 Ⅱ. 耳鳴り・難聴に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
20		2－5 腎系統 Ⅰ. 脱毛症に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
21		第４節 その他の症候 Ⅲ. 口渇に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（１）	
22		第４節 その他の症候 Ⅳ. 出血傾向に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（１）	
23		2－1 肝系統 Ⅱ. 気分障害に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
24		全 期 ま と め （実 技 等）	

その他の事項

【学習アドバイス】

知識として要求されるのは、『臨床医学総論』、『臨床医学各論』、『経絡経穴概論』、『東洋医学概論』の分野です。この科目は単独で学習する類のものではなく、他の科目の知識がいかに身についているかが問われるものと言えますので、まずは上記科目をしっかりと確認することが必要です。そのためにも授業前後、または授業中にわからない項目についてその都度、上記４科目の教科書・ノートを確認するようにしてください。

専 門 分 野

(東洋医学臨床論Ⅱ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2022 年度シラバス

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	2	必要時間数	32	実施時間数	32
担当教員	村上 朱保				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	はり師きゅう師およびあんま・指圧・マッサージ師は、臨床の現場において治療を安全に実施する必要がある、各症候、疾病の鍼灸などによる治療の適不適を正しく判断し、時に緊急を要する病態、医療機関での受療を必要とする疾患を見極め、適切な処置および治療を行うことが必要とされる。そのため、西洋医学及び東洋医学それぞれの病態把握、治療方針を導き、治療の選択が可能となることを目的とし、各症候をひき起こす病態、疾患の特徴と鑑別、西洋医学的病態生理に基づく治療方針と治療、東洋医学的病態把握、治療方針、治療について学習する。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、教科書検討小委員会著、新版東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉、南江堂、２０２２年				

具体的な到達目標	
目標 1	各症候を引き起こす西洋医学的な病態および疾患を説明することができる。
目標 2	各症候を引き起こす西洋医学的な病態および疾患を鑑別することができる。
目標 3	各症候を引き起こす西洋医学的な病態および疾患を鑑別し、鍼灸治療の適不適を判断することができる。
目標 4	各症候を引き起こす西洋医学的な病態および疾患に基づき治療を選択することができる。
目標 5	各症候を引き起こす西洋医学的な病態および疾患に基づき生活指導を行うことができる。
目標 6	各症候の鍼灸治療が適応となる病態、疾患について、東洋医学的弁証論治を説明することができる。
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%		
平常点	0%	算出方法	算出方法
出席点	0%	算出方法	算出方法
その他		算出方法	算出方法
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の実務経験	臨床検査技師、はり師きゅう師の免許を有する。臨床検査技師として病院で10年9か月、鍼灸師として9年間の臨床経験あり。また中国の大学病院において卒業実習1年、中医師研修として5年間の実務経験あり。教員経験6年。

実務経験 をいかした 教育内容	臨床の現場で遭遇する可能性のある症候について、その病態や疾患による症状、西洋医学的診察や各種検査による鑑別と治療、東洋医学での辨証論治について説明する。		
	授業の内容		
回数	日程	内容	備考
1		オリエンテーション、第2章 第1節 VII 胸痛	
2		第2章 第1節 VII 胸痛	
3		第2章 第1節 VIII 腹痛	
4		第2章 第1節 VIII 腹痛	
5		第2章 第1節 VIII 腹痛、第2節 2-3 IV 悪心・嘔吐	
6		第2章 第2節 第2節 2-3 V 便秘	
7		第2章 第2節 第2節 2-3 VI 下痢	
8		第2章 第2節 第2節 2-4 I 咳嗽と喀痰	
9		第2章 第2節 2-4 II 呼吸困難、2-4 III 鼻閉・鼻汁	
10		第2章 第2節 2-5 III 排尿障害	
11		第2章 第2節 2-5 III 排尿障害、2-5 IV ED	
12		第2章 第5節 I 概説、II 月経異常	
13		第2章 第5節 II 月経異常	
14		第2章 第5節 III 性器出血、IV 帯下	
15		第2章 第5節 V 不妊症、VI つわり	
16		第2章 第5節 VII 骨盤位（逆子）、VIII 乳汁分泌不全	
その他の事項			
授業動画は多少前後する可能性があります。ご了承願います。			

専 門 分 野

(鍼灸実技Ⅱ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2022 年度シラバス

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	9 0	実施時間数	9 0
担当教員	樋口 雅一 / 臼井 明宏 / 金井 優也 / 岩本 奈己				
授業形態	実 習	教 室	第3実技室		
授業目的	運動器疾患を中心に、各部位の症状を鍼灸施術により改善できるようになる。臨床で遭遇しやすい疾患に対し、代表的な治療穴を用いた施術ができるようになる。卒業時に自信をもって鍼灸施術に臨めるように準備をする。 また、各症候の東洋医学的、現代医学的な考え方を理解し、特殊鍼灸術を含めた鍼灸実技が安全に行うことが出来る。病態に合せた鍼灸実技を選択することが出来る。				
教 科 書	教科書は指定しない				

具体的な到達目標	
目標1	治療経穴を自分で選択できるようになる。
目標2	症状の改善過程を説明できる。
目標3	特定の筋肉を指標に鍼灸施術ができる。
目標4	目的とする場所に鍼灸を誘導できる。
目標5	思い通りの温度で施灸ができる。
目標6	特殊鍼灸術を含めた鍼灸実技が安全に行うことが出来る。
目標7	病態に応じた鍼灸を選択することが出来る。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	50%		50%		
平常点	20%	算出方法	授業への参加姿勢、課題	20%	算出方法
出席点	30%	算出方法	欠席2点減点・遅刻1点減点	30%	算出方法
その他		算出方法			算出方法
試験日					

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の実務経験	(樋口) 鍼灸師免許を有する。鍼灸治療院にて20年以上の臨床経験あり。Vリーグ(バレーボール)トレーナー。 (臼井) あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業3年、他治療院2年の勤務経験あり。脳血管障害等のリハビリ病院にて、3年の研修経験あり。認定訪問マッサージ師の資格あり。本校附属治療所で2年間の実務経験あり。 (金井) はり師・きゅう師の免許を有する。免許取得後、教員養成科時代に附属治療院にて2年間の実務経験あり。鍼灸治療院にて2年間の勤務経験あり。本校附属治療所で3年間の実務経験あり。 (岩本) はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成科附属治療院で2年の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸を行う事によりどの様な症状を改善できるのか、またどの様な経過をたどり改善していくのかを伝える。 鍼灸に携わるようになった頃から現在までの感覚の変化も伝えたい。 また、臨床現場で想定しうる疾患に対し、あらゆる観点を踏まえ効果的な治療方法を体現する。具体的な症例、臨床例を列挙しながら授業を展開する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス・穴の概念と捉え方。無痛鍼の打ち方・効かす灸のすえ方	担当 樋口
2		足部の触診	
3		外反母趾・足底筋膜炎の鍼灸治療	
4		足関節捻挫の鍼灸治療	
5		アキレス腱炎の鍼灸治療	
6		シンスプリント・コンパートメント症候群の鍼灸治療	
7		膝関節の触診	
8		オスグッドシュラッター病・膝水腫の鍼灸治療	
9		膝関節症状に対する灸治療	
10		大腿部前面の筋膜症・肉離れの鍼灸治療	
11		大腿部後面の筋膜症・肉離れの鍼灸治療	
12		股関節・鼠径部の触診と鍼灸治療	
13		小児鍼	
14		手部の触診・手部の特効穴	
15		手根管症候群・ドゥケルバン症候群の鍼灸治療	
16		前期試験	
17		肘の触診・内側上顆炎の鍼灸治療	
18		外側上顆炎の鍼灸治療	
19		肩関節の触診	
20		肩関節周囲炎（前面）の鍼灸治療	
21		肩関節周囲炎（後面）の鍼灸治療	
22		胸郭出口症候群の鍼灸治療	
23		寝違い・後頸部の鍼灸治療	
24		頭痛に対する鍼灸治療	
25		顔面神経麻痺・三叉神経痛の鍼灸治療	
26		頸肩部の凝りに対する鍼灸治療	
27		頸肩背部の遠隔治療	
28		急性腰痛の鍼灸治療	
29		慢性腰痛の鍼灸治療	
30		後期試験	ここまで、担当樋口
31		鍼通電 概要 上肢	担当 金井
32		鍼通電 下肢	担当 金井
33		鍼通電 神経パルス	担当 金井
34		鍼通電 まとめ	担当 臼井

35		経筋治療	担当 金井
36		接触鍼	担当 金井
37		灸頭鍼 概要 腰下肢	担当 臼井
38		灸頭鍼 背部など	担当 臼井
39		棒 灸	担当 岩本
40		隔物灸	担当 岩本
41		箱 灸	担当 岩本
42		奇経治療	担当 臼井
43		皮内鍼・円皮鍼	担当 岩本
44		耳鍼	担当 岩本
45		特殊鍼灸のまとめ	担当 臼井

その他の事項

○授業に関して

ホワイトボードに図等を描くことがあります。必要な方は紙に書いてください。

写真など画像に残す・講義の録音は原則禁止とします。

○平常点について

①紙上の施灸

60 壮の紙上の施灸を 50 枚実施とします(合計 3,000 壮)。毎月初めに、各担任より 10 枚ずつ施灸用の紙を配布しますので、月末までに各担任へ提出をしてください(4 月、5 月、6 月、7 月、9 月に実施とする)。

提出枚数により、20 点中(20%中)、35 枚提出にて平常点 12 点、40 枚提出にて平常点 16 点、50 枚提出にて平常点 20 点とします。

②その他減点(上記、枚数による平常点より、減点となります)

実技道具や実習着忘れ 1 回につき 2 点減点 無断欠席・遅刻 1 回につき 2 点減点

授業中の無駄な私語や教員の指示に従わない場合 1 回につき 5 点減点

○実技実習の到達目標

鍼：目標 課題に対して誤差なく、決められた刺法で刺入ができること。

【深度】3 年生は± 2mm 以内で刺入できることを最低ラインの目標とする。 ※但し、目的の深度が 1 cm の場合は下限を 7 mm とする。

【角度】(直刺) 90° を目標として刺鍼する。3 年生は誤差± 10° 以内で刺入できることを最低ラインの目標とする。

(斜刺) 30° から 60° であるが、基本 45° を目標として刺鍼する。3 年生は指定された角度に対し± 10° 以内

※斜刺は流注に沿っての角度を計測することとする。

灸：目標 人体に対して 3 分間に 12 壮、半米粒大の透熱灸(緩和あり)ができること。

【形・大きさ・壮数・方法・時間】3 年生は 3 分間に米粒大 10 壮、半米粒大 12 壮

専 門 分 野

(あん摩実技Ⅲ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2022 年度シラバス

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	60	実施時間数	64
担当教員	松浦英世				
授業形態	授業形態を選択	教 室	実施教室を選択		
授業目的	これまでにも習った基礎医学や、按摩・マッサージ・指圧基本術式を応用し、各疾病を学び臨床に応用した治療法を学習する。 卒業後の開業した際に患者さんに合った治療法を学習する。				
教 科 書	スポーツマッサージ 配布資料				

具体的な到達目標	
目標 1	体幹部の体表観察、触診を行い骨・筋を理解することができる。
目標 2	体幹部の骨筋を理解した上で障害部位に対し適切な治療をすることができる
目標 3	内科疾患に対する手技療法をすることができる。
目標 4	臨床実習に向けて全身施術ができるようになる。
目標 5	卒業後にに向けてあま指の総合的な治療法を理解し開業に対する考え方ができるようになる
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	70%		70%		
平常点	算出方法		算出方法		
出席点	30%	算出方法 欠席-2 点、遅刻-1 点	30%	算出方法 欠席-2 点、遅刻-1 点	
その他	算出方法		算出方法		
試験日					

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	鍼師・灸師・按摩マッサージ指圧師の免許を有する。鍼灸治療院にて 40 数年の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	臨床の現場において遭遇するあらゆる主訴に対する基本的な治療の方法を行う。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		膝前面⑰ 膝関節の障害について説明。治療穴に対するマッサージ実技。	
2		膝内外⑱ 膝内外の障害について説明。治療穴に対するマッサージ実技。牽引性運動法含む。	
3		膝後面深部⑲ 膝後面深部の障害について説明。治療穴に対するマッサージ実技。	
4		大腿部⑳ 大腿部の障害について説明。治療穴に対するマッサージ実技。伸展法含む。	
5		鼠径部股関節㉑ 股関節の障害について説明。治療穴に対するマッサージ実技。牽引性運動法含む。	
6		治療の概要および太極療法	
7		胃疾患① 肋骨弓角の診方と食道・胃疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
8		肝胆脾② 十二指腸周囲の疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
9		大小腸③ 大小腸疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
10		大小腸③ 虫垂炎・痔疾の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
11		泌尿器疾患④ 腎・膀胱疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
12		婦人科疾患⑤ 月経と更年期疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
13		反射穴に対する手技療法	
14		伸展法実技（下肢編）	
15		前期試験	
16		背俞穴に対する全身編スポーツマッサージ実技（B 腰殿部・C 下肢後面）	
17		呼吸器⑥ 風邪と気管支疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
18		心臓⑦ 不整脈と動悸の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
19		頸肩背部（背俞穴）の全身編スポーツマッサージ実技（A 頸肩背部）	
20		頭痛⑧ 頭部の診方と症状部位の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
21		神経症⑨ 頭部の触診と症状の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
22		眼科疾患⑩ 症状の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
23		耳疾患⑪ 耳鳴り・難聴・めまいの局所穴と遠位穴に対する手技療法	
24		鼻疾患⑪ アレルギー鼻炎や嗅覚異常の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
25		顔面部⑫ 顎関節症・歯痛の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
26		伸展法実技（頸部・肩甲部）	
27		美顔マッサージ実技 美顔の局所穴と遠位穴に対するマッサージ実技	
28		乳房マッサージ実技 乳房に対する局所穴・遠位穴・反射穴のマッサージ実技	
29		頭髮際刺針法 理論と実技	
30		耳鍼法 理論と実技	
31		後期実技試験	
32		診療白書 診察から治療まで	
その他の事項			
各疾患に対し、資料に基づいて実技を学び、その後学生同士ペアとなり実技を行う			

専 門 分 野

(マッサージ実技Ⅲ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2022 年度シラバス

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	3 0	実施時間数	3 0
担当教員	臼井 明宏				
授業形態	実 習	教 室	第3実技室		
授業目的	これまでに習った医学的知識やマッサージの手技を応用し、オイルマッサージにて、腰痛、膝痛などの症候に対する 施術を学習する。				
教 科 書	東洋療法学校協会編 あん摩マッサージ指圧実技〈基礎編〉 医道の日本社				

具体的な到達目標	
目標1	下肢前面・後面の体表観察、触診を行うことができる。
目標2	腰痛、膝痛などの検査・評価等を行うことができる。
目標3	下肢前面・後面へのオイルマッサージを行うことができる。
目標4	
目標5	
目標6	
目標7	
目標8	
目標9	
目標10	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	80%				
平常点	20%	算出方法	課題など	算出方法	
出席点		算出方法		算出方法	
その他		算出方法		算出方法	
試験日					

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業3年、他治療院2年の勤務経験あり。脳血管障害等のリハビリ病院にて、3年の研修経験あり。全日本鍼灸学会認定鍼灸師、認定訪問マッサージ師、介護予防運動指導員、福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で2年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	実際の症例を参考に、評価・施術等を教授する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		下腿後面へのマッサージ(基本手技の確認：軽擦、圧迫、揉捏) オイルのパッチテスト	タルク使用
2		下腿後面へのマッサージ(基本手技の確認：鋸切揉捏の3種類、叩打法、露出など)	以下、オイル使用
3		下肢後面へのマッサージ 流れのレクチャー① 足底 評価…足関節、足趾	
4		下肢後面へのマッサージ 流れのレクチャー② 下腿 評価…足関節、足趾	
5		下肢後面へのマッサージ 流れのレクチャー③ 足底・下腿 評価…足関節、足趾	
6		下肢後面へのマッサージ 流れのレクチャー④ 大腿 評価…FFD、SLR 等	
7		下肢後面へのマッサージ 流れのレクチャー⑤ 大腿・叩打法 評価…FFD、SLR 等	
8		下肢後面へのマッサージ 流れのまとめ：足底～大腿・叩打法	
9		下肢前面へのマッサージ 流れのレクチャー① 足背 評価…足関節、足趾	
10		下肢前面へのマッサージ 流れのレクチャー② 下腿前面 評価…足関節、足趾	
11		下肢前面へのマッサージ 流れのレクチャー③ 下腿外側 評価…腸脛靭帯、鵠足炎等	
12		下肢前面へのマッサージ 流れのレクチャー④ 叩打法・運動法	
13		下肢後面・前面へのマッサージのまとめ 試験要項の説明	
14		期末試験 下肢後面へのマッサージ	
15		試験フィードバック 下肢後面・前面へのマッサージ	

その他の事項
●参考書籍・DVDなど 『エビデンスに基づく 疾患別クリニカルマッサージ』 大谷素明監訳 丸善出版株式会社 『改訂版 クリニカルマッサージ』 大谷素明監訳 医道の日本社 『分解写真で学ぶオイルマッサージ完全マニュアル』 長谷川尚哉著 出版：(株)ソクラーテクノス (kindle 版) 『マッサージスコアで学ぶオイルマッサージ』 長谷川尚哉著 出版：(株)ソクラーテクノス (DVD) ●平常点について 課題、実技チェックなどを行い、20%分の評価とします。

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	川口 隼子、松尾 卓、佐藤 陽子、上田 恵介				
授業形態	実 習	教 室	臨床実習室		
授業目的	指圧療法は、東洋医療の根源ともいべき経絡経穴を重視して、全身を系統的に押圧し、生体の変調を矯正するのみならず、自律神経の支配を受けている内臓機能の変調も矯正し、自然治癒力を喚起して疾病治癒に貢献できる施術である。 指圧の基本手技や理論のみに留まらず、遭遇しやすい疾病に指圧を応用し、疼痛や麻痺の運動神経支配の治療だけでなく、自律神経支配の疾病も、内臓体制反射を利用して治療に役立たせ、臨床の場で実践できるように学習する。				
教 科 書	教科書は指定しない				

具体的な到達目標	
目標 1	各疾病に対してなぜこの経絡経穴を使用するのか説明できる。
目標 2	治療部位の筋肉や神経の作用を説明できる。
目標 3	施術する疾患に対しての適応と禁忌の判断ができる。
目標 4	病名にとらわれず、東洋医学の証を立てて治療ができる。
目標 5	治療やメモ、カルテを使用してカンファレンスができる。
目標 6	各疾患の治療部位にどのような手技を使用する必要があるのか説明できる。
目標 7	模擬の患者に対して治療法の説明ができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	80%	100%	
平常点		算出方法	
出席点	10%	1 回欠席ごとに 2 点。遅刻、早退は 3 回で 2 点の減点	算出方法
その他	10%	服装に関して注意を受けた場合、1 回につき 1 点減点	算出方法
試験日			

★追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☒	無 ☐	
教員の实務経験	〔川口〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。自宅で開業。 〔松尾〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸あま指整骨院にて 2 年間の臨床経験あり。本校附属治療所で 9 年間の実務経験あり。 〔上田〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。あはき施術管理者。教員養成科附属治療院にて 2 年、鍼灸あま指治療院にて 2 年間、往診専門で開業 5 年、本校附属治療所で 7 年間の実務経験あり。 〔佐藤〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において 7 年間の臨床経験あり。本校附属治療所で 11 年間の実務経験あり。		
実務経験をいかした教育内容	実際の臨床における患者対応や頻度の高い疾患・症状へのアプローチの方法などを盛り込みながら指導を行う。		

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		肩こりと指圧。背部俞穴の取穴（足の太陽膀胱経 1 線、2 線）と指圧、肩こり施術に使用する	川口

		る筋肉と神経、カンファレンスの説明。	
2		胸郭出口症候群の指圧治療（原因、症候、検査法、治療法）側臥位の指圧を応用する。 経絡経穴を応用する（手太陽小腸経、手陽明大腸経など）過外転症候群など。カンファレンス	川口
3		不眠症の指圧治療（東洋医学的原因の場合、経絡を使用しての証立てをする） 『難経』69難を応用する。カンファレンス	川口
4		更年期障害と指圧治療（更年期症状と障害の相違点、種類、原因、治療法）カンファレンス	川口
5		肩関節の疾患と指圧治療（種類、原因、症候、検査法、治療法）カンファレンス	川口
6		腰下肢痛と指圧治療（種類、原因、症候、検査法、治療法）カンファレンス	川口
7		膝関節の疾患と指圧（種類、原因、症候、検査法、治療法）カンファレンス	川口
8		消化器疾患についての按腹の練習（太田晋斎著の按腹13術）カンファレンス	川口
9		片麻痺について、車椅子の実技、杖の使用方法など	川口
10		前期末試験	川口
11		伏臥位の指圧復習（通し）	上田①
12		側臥位の指圧復習（通し）	上田②
13		検討中（基本圧法のおさらい1 通常圧法・衝圧法・緩圧法）	上田③
14		検討中（基本圧法のおさらい2 持続圧法・吸引圧法・振動圧法）	上田④
15		伏臥位の指圧練習	上田⑤
16		指圧審査	松尾・佐藤・上田
17		指圧審査	松尾・佐藤・上田
18		側臥位・坐位・仰臥位の指圧復習	松尾①
19		耳鳴に対する指圧治療	上田⑥
20		呼吸器疾患に対する指圧治療	松尾②
21		冷えのぼせに対する指圧治療	佐藤①
22		十二経筋を応用した指圧治療	上田⑦
23		便秘・下痢に対する指圧治療	松尾③
24		食欲不振に対する指圧治療	佐藤②
25		神経痛に対する指圧治療	上田⑧
26		運動麻痺に対する指圧治療	松尾④
27		指圧総復習1	佐藤③
28		指圧総復習2	佐藤④
29		後期期末試験	松尾・佐藤・上田
30		後期期末試験	松尾・佐藤・上田

その他の事項

カンファレンスを取り入れた理由は、病態把握や卒業後の患者とのコミュニケーションに役立ちます。体調管理をして休むことがないようになさいます。授業開始のチャイムが鳴る前に白衣に着替えて臨床室に集合すること。プリントは都度配布します。

専 門 分 野

(臨床実習Ⅱ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2022 年度シラバス

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	6	必要時間数	2 7 0	実施時間数	2 7 0
担当教員	川口/松尾/上田/臼井/佐藤/棟居/下宮/高橋/金井/西田/田中/岩本				
授業形態	実 習	教 室	臨床実習室		
授業目的	臨床に出て適切に対処できる最低限の知識、技術を身につける。				
	施術者としての自覚を持ち、安全性を十分に考慮した上で施術ができるようになる。				
	「東洋医学的」、「現代医学的」両面から収集した情報をもとに適切な対処ができる。				
	授業で学んだ検査や四診を活用し、患者の病態を把握できるようになる。				
教 科 書	臨床実習の手引き				

具体的な到達目標					
目標 1	施術者としての自覚を持ち、臨床実習に相応しい身だしなみ、態度で積極的に参加することができる。				
目標 2	患者の「受入れ・医療面接・触診（切診）・検査法・病態把握・施術方針の決定・施術・評価」の流れをスムーズに行うことができる。				
目標 3	安全かつ適切な対処や施術ができる。				
目標 4	「東洋医学的」「現代医学的」な病態把握に基づく施術ができる。				
評価と試験					
前 期			後 期		
平常点	算出方法	後期に準ずる	41 点	算出方法	その他の事項に記載
出席点	算出方法	後期に準ずる	59 点	算出方法	その他の事項に記載
その他	算出方法		0 点	算出方法	
試験日					

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験				
実務経験	有	☒	無	☐
教員の实務経験	〔川口〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。自宅で開業。 〔臼井〕 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業 4 年、他治療院 2 年の勤務経験あり。脳血管障害等のリハビリ病院にて、3 年の研修経験あり。全日本鍼灸学会認定鍼灸師、認定訪問マッサージ師、介護予防運動指導員、福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で 2 年間の実務経験あり。 〔上田〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。あはき施術管理者。教員養成科附属治療院にて 2 年、鍼灸アマ指治療院にて 2 年間、往診専門で開業 5 年、本校附属治療所で 7 年間の実務経験あり。 〔松尾〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸アマ指整骨院にて 2 年間の臨床経験あり。本校附属治療所で 9 年間の実務経験あり。 〔佐藤〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において 7 年間の臨床経験あり。本校附属治療所で 11 年間の実務経験あり。 〔田中〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成学科附属治療院で 2 年、あはき整骨院で 2 年間、出張開業で 1 年の実務経験あり。			

	〔棟居〕はり師・きゅう師の免許を有する。鍼灸院にて9年間の実務経験あり。教員養成科附属治療院にて2年間、往診専門で2年間、本校附属治療所で12年間の実務経験あり。 〔下宮〕はり師・きゅう師の免許を有する。整形外科、鍼灸整骨院にて4年間の経験あり。他校附属治療院にて6年間の実務経験あり。本校附属治療所で3年間の実務経験あり。 〔高橋〕はり師・きゅう師の免許を有する。免許取得後、教員養成科時代に附属治療院にて2年間の実務経験あり。本校附属治療所で3年間の実務経験あり。 〔金井〕はり師・きゅう師の免許を有する。免許取得後、教員養成科時代に附属治療院にて2年間の実務経験あり。鍼灸治療院にて2年間の勤務経験あり。本校附属治療所で3年間の実務経験あり。 〔西田〕はり師・きゅう師の免許を有する。全日本鍼灸学会認定鍼灸師。5年間大学附属鍼灸センターにて治療経験あり。大学附属病院外科にて1年の研修経験あり。教員として学校附属治療院で3年、訪問出張施術で1年の臨床経験あり。本校附属治療所で2年間の実務経験あり。 〔岩本〕はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成科附属治療院で2年の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	（あん摩マッサージ指圧） あん摩マッサージ指圧における基本手技を必要に応じて病態に適した施術ができるように教育する。 （鍼灸） 鍼灸師にとって必要な東洋医学的理論に基づく治療配穴や刺鍼および施灸方法とその刺激の調整について教育する。また、西洋医学理論に基づく筋肉や神経に対して、適切な鍼の深度と角度で施術ができ、必要に応じて施灸をすることができるよう教育する。

授業の内容		
回数	内容	備考
1～135	来所患者に対し、教員管理のもと施術を行う。	

その他の事項	
<出席点>59点 ・総授業数の3/4以上の出席をもって59点とする。出席が3/4に満たない場合、加点はしない。 <平常点>41点 【減点方式】下限40点 ・日々の臨床実習に臨む姿勢（身だしなみ、道具の忘れ、授業態度など） ・「欠席届（欠課・遅刻）」の提出（当日欠課の場合、事前の電話連絡の有無など） ・令和4年7月～9月の欠課、令和5年1月以降の欠課、前出以外の期末試験前日及び当日の欠課 【加点方式】上限41点 ・ポートフォリオの提出（4月から） ・月初めに掲げたパーソナルポートフォリオ、テーマポートフォリオを作成し、その成果を纏めたものを月末に提出する。 ・評価は、優（5点）、良（3点）、可（1点）の3段階とする。 ・年間を通じて8回実施する。提出が1度もされなかった場合、臨床実習Ⅱの平常点は0点となり、単位未習得になるため注意 ・8回すべて提出した場合、ポートフォリオの評価とは別に加点1点とする。 【臨床実習でのマッサージ、指圧の扱い】 マッサージは患者の病態に応じて必要な場合、教員の指示のもと実施することが可 指圧は指圧実技Ⅲ内で実施する指圧審査にて合格したものが基本手技のみ可	

授業概要					
学 科	本科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	樋口 雅一				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	スポーツ選手の施術を目標とされている方は勿論、一般の患者さんの施術を目標とされている方も実際現場に出てみると、プレーレベルの差はあるにせよスポーツによる身体の不調を訴える選手や患者さんを診る場面は多くあると思います。適切な施術は勿論の事、時には西洋医学に委ねなければならない場面もあります。 西洋医学に委ねなければならないのか、それとも適切な施術により回復が見込めるのかの判断ができる様、スポーツしょうがいの発生機序と施術方法を学習する。				
教 科 書	教科書は指定しない。授業内でプリントを配布する事があります。				

具体的な到達目標	
目標 1	しょうがいの発生機序が説明できる。
目標 2	しょうがいに関係する筋肉・神経の走行が説明できる。
目標 3	しょうがいに関係する筋肉・骨の触診ができる。
目標 4	西洋医学での診断が必要かの判断ができる。

評価と試験						
前 期				後 期		
試験成績	90%			90%		
平常点	10%	算出方法	授業態度・参加姿勢	10%	算出方法	授業態度・参加姿勢
出席点		算出方法			算出方法	
その他		算出方法			算出方法	
試験日						

*追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有☒ 無☐
教員の実務経験	鍼灸師免許を有する。 鍼灸治療院にて20年以上の臨床経験あり。 Vリーグ（バレーボール）トレーナー
実務経験をいかした教育内容	鍼灸院および現場でのスポーツ選手のケアの経験より、スポーツしょうがいの発生機序・施術法説明

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、足部の骨	
2		足部の機能解剖・しょうがい	
3		足部の機能解剖・しょうがい	
4		足部しょうがいと支点	
5		足部まとめ	
6		足関節の機能解剖・しょうがい	
7		足関節の機能解剖・しょうがい	
8		下腿部の機能解剖・しょうがい	
9		下腿部の機能解剖・しょうがい	
10		膝関節の機能解剖・しょうがい	
11		膝関節の機能解剖・しょうがい	
12		大腿部の機能解剖・しょうがい	
13		股関節・殿部の機能解剖・しょうがい	
14		股関節・殿部の機能解剖・しょうがい	
15		下肢まとめ	
		前期期末試験	
16		手部の機能解剖	
17		前腕・肘部の機能解剖・しょうがい	
18		肘部の機能解剖・しょうがい	
19		手部～肘部まとめ	
20		肩関節の機能解剖	
21		肩関節の機能解剖・しょうがい	
22		肩関節のしょうがい	

23		頸部の機能解剖・しょうがい
24		頭痛に対する施術法と対処法
25		背部の痛みに対する施術法
26		背部の痛みに対する遠隔治療法
27		腰部の機能解剖・しょうがい
28		腰部の機能解剖・しょうがい
29		姿勢・歩行
		後期末試験
30		痛みの軽減と再発防止
その他の事項		